

## 小中学校のあり方意見交換会 議事録 (大利根中学校区)

令和6年1月22日 15:00～16:40  
アスタホール（多目的ホール）

### 参加者

幼稚園評議員及び小中学校評議員 18名

#### 教育長・教育委員

小野田教育長、遠藤委員、猪股委員、松永委員、片山委員

#### 校長・園長

小林大利根東小学校長、大谷原道小学校長、増田豊野小学校長、  
江利川元和小学校長、塚本大利根中学校長

#### 事務局

齊藤生涯学習部長、中島学校教育部長、野本こども局長、高貫教育総務課長、清水学校教育課長、関口こども保育課長、岡田教育総務課主幹、野本学校教育課主幹兼指導主事、瀬高学校教育課主幹兼指導主事、澁谷学校教育課主幹兼指導主事、荒木こども保育課主幹兼指導主事、杉田教育専門員、小林教育総務課主査

### 意見交換

学校ごとにグループで話し合いを実施（校長同席、教育委員会職員も会話に参加）

### 会議資料

別添資料のとおり

## 幼稚園・小中学校評議員からの主な意見（学校ごと）

#### 【大利根東小学校】

- 統合はやむを得ないのではないかと。約60年前に元和中学校と豊野中学校を統合し、豊和中学校となった実績がある。大変なことではあるが、目標を設定して市民の理解を得ながら進めていくことが重要で、私たちも一緒に取り組む問題である。

- 遠方から通学している児童が多いので、統廃合の際には通学方法が問題となる。スクールバスの運行も考えられるが、子どもたちが運動不足となるため、適切な運動の確保も考慮してほしい。

#### 【原道小学校】

- 複式学級は望まない。少なくとも学年単位でのクラスがいい。1クラスだと人間関係が壊れてしまうと、非常に居づらい状況になるので、複数のクラスが必要である。子どもの視点に立った、学校の規模にすべきである。
- 少子化の流れが凄まじい。地元の細間団地では半分の50世帯程度は空きとなっている。行政からも有効活用を呼びかけ、子どもを受け入れる措置をとってほしい。学校の問題とは言え、突き詰めればまちづくりと直結する大きな問題である。いずれにしても市民からの意見を吸い上げていただきたい。
- 通学班についても配慮してほしい。最後は一人になってしまう時間が長くなる可能性があるので、安全のケアを図ってほしい。
- 原道小学校は、加須北中学校でも大利根中学校でも選択できるようになるといいのではないか。
- 統廃合にあたっては学校の選択制を考えてもいいのではないか。
- 統廃合にあたっては、小中一貫校を考えてもいいのではないか。
- 担任する教員としては、何人ぐらいの児童が適切なのか。20人~30人ぐらいの規模が適切かと思われるが、そのような数字も参考に考えてもいいのではないか。
- 少なくとも、クラス替えができるぐらいの規模にしたい。
- 統廃合の際には、スクールバスの運行も併せて考えてほしい。
- 統廃合はやむを得ない。その際には、これまでの地域の枠を超えて、スクールバスの運行をお願いしたい。加須北中学校などは教職員の適正配置もできない状況となっているため、市独自のケアが必要となっている。

#### 【豊野小学校】

- 現在、小規模の良さを十分に発揮できるような教育活動に努めている。学年だけの横のラインだけではなく、学年を縦割りにし、相互の交流が図れるようにしている。アットホーム的な雰囲気の中での学校生活になっているが、高め合い、切磋琢磨という点では課題がある。運動会なども、種目によってはやりくりが厳しい。
- 少なくともクラス替えができる人数が欲しい。
- 子どもを中心に、保護者や地域の方々の話を丁寧に聞きながら対応してほしい。

#### 【元和小学校】

- 話し合いの柱が、もっと明確に示されているとよかった。
- 市内でも人口増加地域がある。市としても人口増加に向けた施策を講じてほしい。とにかく児童の減少数が多くてびっくりしている。
- 元和小学校でも、1クラスの人数が20人、30人と差が出ている。不平等解消のためには、学校選択制を考えてもいいのではないか。
- 現状では、元和小学校はどちらかの学校とも統廃合は必要ないのではないか。

#### 【大利根中学校】

- 全国的に少子化の流れが進んでいるため、学校の統廃合は仕方がない。むしろ、しっかりと行うべきである。統廃合の際には、吸収合併のような形は避けてほしい。一度学校を閉校し、新たな学校を作る形を取ってほしい。
- 次第に税収も少なくなることが容易に予想される中、コスト面も考慮すべきである。小規模校であっても、経費は多くかかっていることを示すべきである。

### 幼稚園・小中学校評議員からの質問等

特になし